



すべての視力障がい者に福音を！ キリスト教良書を！

# ホ・ロゴス

2014年10月  
51号

## ὁ λόγος

ホ・ロゴスとは、ギリシャ語で「言葉」という意味。英語に言い換えると「The Word」。このタイトルは、静岡盲人伝道センター広報誌第2号（1969・11月発行）から使われ、ヨハネによる福音書の冒頭「初めに言（ことば）があった。言は神と共にあった。」から引用され、視力に障害を持つすべての人に福音を、という熱い祈りが込められている。



### 維持会員募集中!

当センター事業の維持・継続のために、皆さまのご入会をお願いしています。維持会員への加入は、1ヶ月一口100円から受け付けます。詳しくはセンターへお問い合わせください。

## 心の渇きをいやす神

遠山信和（静岡教会牧師）

鹿が谷川の流れを慕いあえぐように、  
神よ、私のたましいもあなたを慕いあえぎます。  
（詩篇 42：1）



T.Sawano 画

静岡キリスト教盲人伝道センターが、渇いた世界の中であって、唯一の救い主であるイエス・キリストを宣べ伝えるために立てられ、これまで多くの皆様方の祈りとご支援の中でこの働きを続けてくることが出来ましたことを心より感謝いたします。主が共にいてこの働きをこれからもお導き下さるように願って止みません。

「都会にこそ孤独がある」といった方がありません。モノは豊かになり、便利な社会になりましたが、人々の孤独や将来への恐れ、そして心の渇きは増大しているように思われます。しかも、その魂の渇きを潤してくれるものに出会うことが難しくなっているように思われます。酒やタバコなどによってはこうした渇きを癒すことは出来ません。

イスラエルの荒野に住む鹿たちは、断崖絶壁の遙か下を流れる川の水を求めて下っていきます。なれない小鹿が足を滑らせて転落し、死んで

しまうこともあるのです。雨の降らない乾いた地に住む鹿たちにとって、谷川の流れは命をつなぐ唯一の望みです。

しかし、そこに至るまで断崖の絶壁があります。命の水と鹿たちを隔てているものがあります。私たちも心とたましいが渇くことがあります。どこに行ったらこの渇きを満たすことができるのか。命の水と自分との間を隔てる大きな壁があるように感じることもあるでしょう。

しかし、イエス様は言われました。「私が与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命への水が湧き出ます。」（ヨハネ 4：14）イエス様は、私たちと命の水を隔てる大きな壁を越えてやって来られました。私たちが罪と死の中から救い出し、私たちが満たして下さるためです。イエス様はあなたの渇きをご存知です。私たちのすべての渇きをイエス様は満たして下さいます。

静岡県キリスト教盲人伝道センター広報誌「ホ・ロゴス」第51号 2014年10月発行

発行人：青山昭一郎 印刷：プリント彩館 ライトン

発行：静岡キリスト教盲人伝道センター

〒422-8041 静岡市駿河区中田一丁目5-21

Tel 054-285-0496 Fax 054-285-0746 振替 00870-2-7003

Eメール：shizumouden@mail.wbs.ne.jp HP：http://www.dct7.net/

開館時間：祝日等を除く月曜日から金曜日 午前9時～午後5時

# センターはこんな働きをしています！

## トピックス

### ■ 推薦図書



『使徒言行録講解』(全6巻)  
榊原康夫著 教文館発行  
音訳完成しました。榊原  
牧師が現役時代の最後  
と、引退後に名誉牧師と  
なって説き明かした全 114  
篇の説教を収録。



『スタート・アゲイン』(上・下)  
石川ヨナ著 いのちのことば社  
「有神論」世界は神によっ  
て造られたというメッ  
セージが込められている  
新世代ファンタジー小説。  
音訳点訳完成しています。



『Rejoice』(リジョイス) 月刊誌  
日本キリスト改革派教育機関誌委員会発行  
日々のみ言葉です。  
センター制作の点字版を  
ご利用ください。

### ◆シネマ・デージーをご存知ですか？

シネマ・デージーは一枚のCDに映画  
の音声と音声解説を録音したもので、  
日本点字図書館や日本ライトハウスで  
製作されています。映像を見ることは  
できませんが、お手持ちのデージー再  
生機で手軽に臨場感あふれる映画を楽  
しめます。「サウンド・オブ・ミュージック」  
「Always 3丁目の夕日」などもあります。

### ■ お知らせ

◆伊縫智子さん、吉本淑子さん 表彰  
鉄道弘済会・音訳者表彰で奨励賞を  
受賞されました。感謝です！

◆視覚障害者手帳をお持ちでない方も  
活字読書が困難な方(病気・高齢など)  
も音声CDを貸し出します。送料など  
も無料。mp3対応のCDラジカセまた  
はパソコンで再生できます。

静岡盲人伝道センターはキリスト教図書専門の点字図書館です。当センターでは、  
視力に障がいのある方、また高齢や病気などのために読書が困難な方々のために  
点字図書、録音図書の製作と貸し出しを行っています。

多くの方のリクエストに応えて

## 『新共同訳聖書』 章節入りの音声版再編集！

新共同訳聖書の音声版CDはすでに他館で完成また市販のものもありますが、「聖書の  
学びのために、章や節が検索できる CD を製作してほしい…」というリクエストがあり  
ました。それも一人ではなく大勢の方が必要としておられました。その要望を受けて、さ  
っそく再編集製作に取り掛かりました。音  
源は当館蔵書の懐かしいカセットテープ  
音声を使用しました。制作・校正に手間  
取りましたが、当センターオリジナルな  
新共同訳聖書章節入りCDが完成しまし  
た。是非ご利用ください。

完成した mp3 デイジー図書 →



## 点字プリンターの威力！

一点一点打ち込んでいた点字も、今では、  
点字データをパソコンから入力すれば、両  
面を同時にプリントアウトできるようにな  
りました。精密な機械で、高額ですから故  
障しないよう十分注意が必要ですが、便利  
になりました。いろいろな信仰書を実費  
(用紙とファイル代)でお届けしています。  
お問い合わせください。

当センターの点字プリンターで打ち出した『ハイデル  
ベルク信仰問答書』を礼拝で触読する白岡庸子さん  
(日本キリスト改革派新居浜伝道所にて) →



## 音訳初級講習会を開催しました！

昨年に引き続き、名古屋地区を対象に音訳初級講習会を4月から開催しました。  
今年は思いのほか多くの方が参加され、9月末に9名の方に修了証書をお渡ししました。

音訳講習受講風景 →

初心者のための  
「点訳パソコン通信講座」  
パソコン点訳を通信で初  
歩から指導します。  
ご希望の方はお問い合わせ  
ください。





## 「主は生きて働かれている」

### ～ 恵みの証 ～

私の名前は山本律（ただし）といいます。現在国家公務員の非常勤職員として内閣府金融庁に務めています。もう今年で8年目となりました。

きっかけは障害者枠で募集していたため応募してみようと思ったのですが、まさか本当に採用となるとは当時考えてもいませんでした。また今日まで続くとも思えませんでした。神様の不思議なご計画により、導かれたと思い、感謝しています。

業務内容は研修の準備、アンケートの集計が主です。

私が勤務して3年目の時に、私と同じような弱視の女性の方が同じ非常勤職員として採用され、6年目の時にまた一人弱視の方が非常勤として採用され、金融庁では現在3名の視覚障害者が継続して勤務しています。どうやら他省庁では殆ど事例がないそうです。それは本当に素晴らしい神様のみ業だと日々感じています。

勿論いいことばかりではありません。時には差別に近いこともされます。この世では弱さがあると人々に打ち勝てない部分があり、挫折しそうな時もありますが、そんな時いつも心の支えとしている御言葉があります。詩篇37篇23～24節です。「人の歩みは主によって定められる。主はその行く道を喜ばれる。たといその人が倒れても、全く打ち伏せられることはない。主がその腕を支え助けられるからである。」この御言葉は、これまで幾度も私の励ましとなってきた言葉です。

そういえば「λ ο γ ο ς」は言葉の意味でしたね。現在の職場で勤務する前、実はたった一年間だけでしたが、神学校で学んでいた時があり、その時の記憶で「ロゴス」という意味を覚えていました。

ちなみに仕事以外では日本キリスト教伝道協議会の会員であり、昨年まで青年部長をしていました。残念な事に部員の殆どが40才に近く、昨年9月からは休部になりました。

TADASHI  
YAMAMOTO  
山本 律 さん



その代わりというわけではありませんが、年齢の枠を超え、盲人、晴眼者、弱視者のクリスチャンが自由に交わる新しいグループを立ち上げ、今年の9月に記念する集会を持とうとしています。

また個人的な活動としては、2008年頃からゴスペルの作詞もしており、今年7月に一冊の楽譜冊子が出来上がりました。今後も作詞の活動を続け、主の証ができればいいなと思っています。

神様は本当に不思議なみわざをなされ、慈しみと恵みを与えてくださる方ですね。

私はこのような素晴らしい生きて働かれる天地創造の主、そして私を罪の中から十字架で流された血潮を持って救ってくださった主イエス、死して復活され、昇天された後に降られ、今も私たちの内に臨んで、人生を導かれている聖霊を一人でも多くの人に宣べ伝えられたらとても素敵だな、と感じています。

この世にあっては弱い者ですが、主が共におられ、働かれてくださっているなら、恐れなく歩んで行けると信じています。これからも世の光として、また地の塩として主に仕え、主と共に歩み、最後まで信仰の炎を燃やしながら、与えられた信仰生活を送っていきたくて心から願っています。主が約束された御言葉である、「見よ、私は世の終わりにまでいつもあなたがたと共にいるのである」を確信しつつ前進し、神の御国に入る日まで…。

主イエスの恵みが皆様の上に豊かにありますように。

(日本イエス・キリスト教団 荻窪栄光教会員)



## 主のお導きと御力によって

利用者 梨木和子（富山県）

『珠子十歳のれくいえむ』この本によって私はキリスト教と出会いました。25歳頃のことです。癌のため片足を切断し、肺にまで転移しますが、11歳の誕生日を待たずに骨肉腫で亡くなった少女の話です。しかし彼女の、カトリック信仰を持って明るく生きている姿に感動し、私も信仰をという希望を強く持ちました。ですが周りには相談する人もおらず、どうしようと思っていた矢先、エホバの証人が家へ来るようになり、飛びついて勉強をしました。そこでバプテスマを受けました。しかし、段々と友達が減っていき、自分の時間も取れなくなり、また当時ちょうど輸血の問題などもあって、エホバの証人を辞めることにしました。

その頃、点字図書館のボランティアさんがカトリックとつながりのある方でしたので、初心に戻りカトリック教会の門を叩きました。家から近いとは言えない距離でしたが、熱心に通いました。しかし、家族は教会へ行くことに反対で、神父様からは「家族のゆるしかなければ洗礼は受けられない」と言われ、なかなか受洗できずにおりました。

この状態では受洗は無理だと諦めかけたとき、私を心配してくれる、プロテスタントの教会へ行っている友人が教会を紹介してくれました。その後、私は病のため人工関節を膝に入れることになり、教会にも行けないと思っていたら、何と、自宅から車で15分くらいの所にアッセンブリーの教会があり、教会の皆さんが送迎をしてくださり、今は毎週通うことができるようになりました。

そして、「そろそろ洗礼はどうですか？」と牧師先生から話があり、海で受けるということに躊躇しましたが、先生が受けたほうがよいと言われる時に受けるのが一番よいだろうと考え、9月28日に受洗しました。

このように大きな主のお導きと力によって信仰を与えられました。まったくの初心者ですが、皆様と共に歩ませてくださいたいと願っております。

## たった一人のためにも

音訳奉仕者 島田光輝（聖イエス会尾道教会牧師）

聖イエス会静岡教会で奉仕していた時、音訳講習会の案内が届けられました。盲人伝道センターは自転車でも行ける距離にありましたので、私はその講習会に参加いたしました。講習会では朗読の基礎を教えていただけるという事で、普段の礼拝説教の話し方の学びになるという事も期待していました。

私にとって音訳の課題は、染みついているイントネーションを標準語に直すことです。現在も、自己流のイントネーションが抜けきれていませんが、講習会以降、6年ほど音訳の奉仕を続けさせていただいております。

私の周囲には、今まで点字や音訳を利用しておられる方がいませんでしたので、盲人伝道センターの働きについて知る機会がありませんでした。けれども、講習会に参加し、音訳ボランティアをさせていただいてから、センターがたった一人の利用者のためにも、尽力しておられる事を知りました。私が所属する聖イエス会のメンバーのために讃美歌（聖イエス会で編集したもの）を点訳してくださり、届けてくださったこともありました。センターの存在意義を私自身に強く印象づける出来事でした。

現在、月刊誌「クレイ」の音訳を続けています。毎月、届けられる冊子の音訳をしながら、福音の素晴らしさ、聖書の深さを教えられています。利用者のためではなく、私自身の学びと成長のための時間となっています。

「クレイ」は多くの方が利用して下さっていることをお聞きしています。けれども、人数の多少ではなく、今後も可能な限り音訳を続けていきたいと思っています。



## センター便り

盲人伝道センターをお支え下さる全国のみなさま、お祈りとご援助に心から感謝いたします。じつは、去る8月4日、センター創立者の青山輝徳先生が天に召されました。終戦記念日の少し前でした。不発弾の処理で失明された先生が、戦争の不条理を覚えられ、岡田隼先生たちに同調して改革派教会を熱心に立てあげ、このセンターをも国庫の補助に頼らない、ただ主の

み旨にそった施設にと強く願っていたことを私は印象深く思い起こします。戦後69年という長い年月は、戦争を知らない多くの世代を生みました。世の中が少し右系化しているようで心配な昨今ですが、青山先生の志であった純粋に神さまと人々に喜ばれる盲人伝道センターとして、これからも発展しますように、どうぞ、みなさまのお祈りとご支援をお願いいたします。音訳、点訳ボランティア、また、ご利用など、どうぞお気軽にお問い合わせください。（S）